
マザーズ オヴ レイン

山本喜也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マザーズ オヴ レイン

【Nコード】

N37430

【作者名】

山本喜也

【あらすじ】

梅雨時のある日、ぼくはぎんざに出かけた。

雨宿りで入った文具店で、ラジカセの音楽を聴いていた。

ある一曲でぼくは、ひとつの確信を得た。

(前書き)

話の舞台は20年ちょっと前のことだ。

マザーズ オヴ レイン

山本 喜也

梅雨の合間の薄曇りの日だった。湘南と呼ばれる地域の茅ヶ崎市に当時住んでいたぼくは、東海道線の上り（東へと向かう列車のことだ）に乗って気晴らしに出かけた。取りあえず銀座に出てみようと思っていた。

新橋で京浜東北線に乗り換え（神戸生まれのぼくにとってはこのライトブルー一色の列車に郷愁を感じたものだった。蛇足だが、この時点では京浜東北線は山手線との並行区間での快速化はまだされていなかった。）、有楽町で降りた。

文庫本型の地図を頼りに、銀座通りまで歩いて出ると、空は泣き出したいのを我慢しているかのような暗い雲の色に変わっていた。

銀座に来たからといって別にデパートの中を見て回るのではなく、ただ商店街をぶらぶら、のんびりと歩くのがぼくの趣味のひとつだった（今でもそうだ）。

同じ職場の「伊藤さん」という女の子に恋をし、そして失恋し、それでもなお且つ毎日職場で顔を合わせなければならぬという切ない苦痛がどうやら苦痛でなくなりつつあった時のことだ。

商店街を歩くぼくはいつも一人だった。

まるでアイスクャンデーを舐めるように商店街の端から店を眺めて回った。

途中で小雨が降りだしたのでイトヤという文具店に入って雨やどりをすることにした。小奇麗なファンシーグッズをひとつひとつ手にとって眺めていると退屈せずに済んだ。

当時は、音楽に合わせて首を振りコミカルにツイストもしくはダンスする、サングラスをかけた向日葵の鉢植えの形をした電池仕掛けのおもちゃが流行っていた。イトヤの店内のテーブル上には、その音楽に合わせて踊る植木鉢たちが数多く並べられ、その中央にはラジカセが一台置かれていた。様々な茎をくねらす向日葵たち、それは一種壮観なものがあつた。見ていて見飽きないのである。風になびくのでなく、各々ばらばらな動きをする。決してシンクロナイズされてはいない。ひとつひとつ個性を持っていてかつ、全体として特異な、そして陽気な場を形成していた。

ラジオの周波数がFM局かFEN（米国極東放送）に合わせてあつたのだろう。ロックミュージックが三曲流れ終わった後で、アメリカ人のDJが何かしゃべっていた。もちろん早口の米語である。その間、向日葵たちはぎこちない動きをした。長々としゃべった後に、梅雨時にふさわしい音楽でもと言つたのだと思う。一曲の電子音楽が流れ出した。

初めて聞く曲だったが、聴いていて、「これはひよつとして、、、」と思つた。アレンジ（編曲）には馴染みがあつた。なんとなく懐かしさを感じさせるメロディーだった。途中で入るエレクトリックギターの音色にみずみずしい感じを聴き取つた。曲が終わるまでの間にぼくはひとつの確信を得た。

（タンジェリンドリームが新しいアルバムを出したんだ！）
小雨の中を、ぼくは生きる楽しみをひとつ思い出したような気分になつて有楽町の駅へ向かつた。

(後書き)

ハートウォーミングな内容を目指しました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3743o/>

マザーズ オヴ レイン

2010年10月18日03時21分発行